

取組・活動名		熊谷を世界にアピールしよう				
校種・学年		小学校・第3学年			教科等	総合的な学習の時間
カテゴリー	歴史・意義	アスリート	多様性	日本人	時間・学期等	20時間 (9月～12月)
	国際感覚	ボランティア	伝統・文化	(その他)	準備等	ワークシート・パンフレット

プログラムのねらい

- 社会科の授業と教科横断的に関連付けて学習を進めることで、学習内容の定着を図る。
- ラグビーワールドカップ 2019™開催地でもある熊谷市に住んでいることに誇りをもち、熊谷のよさを認め合う態度を育成する。

児童・生徒の実態

児童はこれまでに、オリンピックの歴史や競技、アスリート等についてポスターにまとめ、発表する活動を行ってきた。この学習を通して、調べてまとめ、表現する探究的な活動の過程を学んでいる。社会科の学習では、熊谷市の地形や名所、名産品などについて学習を済ませている。事前アンケートによると、対象とする学級の全ての児童が「熊谷市が好き」と答えているが、知識量や社会的な経験量には差が見受けられる。

プログラムと既存の学習との関わり

既存の学習との違いは、情報を発信する対象をラグビーワールドカップ 2019™で熊谷を訪れる人と想定したことがある。熊谷をアピールすることを意識させることで、開催地であるという意識を高めていく。また熊谷市の魅力について理解を深める中で、地域の自慢や人々の思いに触れ、今まで以上に愛着と誇りをもつことができるようとする。

指導計画・評価計画

【指導計画】

- 第1次 課題の設定「熊谷について知っていることを話し合う」(3時間)
- 第2次 情報の収集「テーマについて情報を収集する」(10時間)
- 第3次 整理・分析「収集した情報を整理・分析する」(3時間) (本時)
- 第4次 まとめ・表現「熊谷市の魅力が伝わる表現方法を考え発表する」(4時間)

【評価計画】

- 自らの課題を見つけ、適切な学習計画をたてることができる。 【学習方法】
- 自らの課題について調べたり体験したりして、情報を収集することができる。

【自分自身に関するここと】

- 収集した情報を正しく理解、分析することができる。 【学習方法】
- 整理、分析した情報をまとめ、わかりやすく表現し、発表することができる。

【他者や社会との関わり】

本時の学習指導

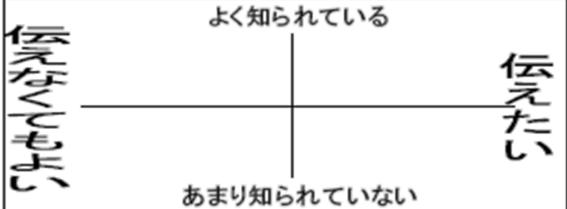
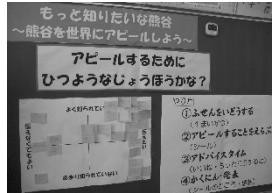
(1) 本時の目標

熊谷市の歴史や文化、施設について調べたことや体験したことを、整理分析することができる。

【学習方法に関するここと】



(2) 展開

学習活動	学習内容	○指導上の留意点 ※言語活動の工夫 ★教科横断的な内容
1 本時のめあてを知る。		○本時のねらいとともに学習の流れを確認し、見通しをもって活動できるようにする。
2 課題について調べたことを確認する。		★社会科の学習で知っていることと、ここまでに調べてきた熊谷市の情報とを比較させる(社会科の学習の活用)
3 情報を整理・分析することの重要性を知る。	○情報の整理・分析・情報の吟味	○本やインターネットの情報は全て正しいものとは限らず、情報をよく吟味する必要があることを理解させる。
4 グループでの情報の整理・分析をする。 思考ツール	○情報の整理・分析・比較・関連付け	○思考ツールを使った情報の整理・分析の方法を説明する。 ※付箋に書いた情報を動かしながら整理・分析を行い、グループでの活動が活発になるようにする。 ○活動が遅れているグループや、話合いが盛り上がりがないグループに声をかけ、話合いを導く。
5 自分の課題ではないグループと意見交換をし、情報の整理・分析を深める。	よく知られている  あまり知られていない	○同じ課題で集まったグループの中から1人をほかのグループに入れ、整理分析した情報について意見の交換をする。 ※自分の課題でないグループと交流することで、違った視点から整理・分析した情報について考えさせる。
6 グループでの活動の様子を発表し、全体で共有する。		○情報の整理・分析がうまく行っているグループを意図的に指名し、よい点を全体で共有できるようにする。
7 本時のふりかえりをする。		○新たに気づいたことや考えたこと、これから知りたいことを中心に本時を振り返る。 ★社会科での熊谷市の学習や、国語科でのグループの交流活動が総合的な学習の時間にも生かされていることを振り返る。

成果	おすすめポイント
○熊谷市の魅力について熊谷市を訪れる人を想起しながら発信することができた。 ○学習したことを、2年生や家庭に向けて発信することができた。 ○思考ツールを使うことで、活発に話し合うことができた。	○発表の相手を世界中から訪れる外国の方に設定することで、ホスト地としての機運醸成と国際感覚を養うことができる。
	“次代に語り継ぐ” ポイント ○言語活動を通して、家庭や地域、2年生に語り継ぐことができる。